

政府からのお知らせ

火の用心!



暖房器具の使用にあたっては、
火災予防を徹底しましょう。

石油ストーブは火事の原因になりやすいので、
特に注意が必要です。

石油ストーブを使用中に『給油』や『移動』、
そして『近くに洗濯物を干したり物を置くこと』はやめましょう。

- 給油などの際に灯油がこぼれると、引火する恐れがあります。
- ストーブのそばに洗濯物を干していると、
ストーブの上に落ちるおそれがあります。



万が一の火事に備えて、
消火の方法を確認しておきましょう。

- 消火器を使って落ちついて消火してください。
- 消火器が近くにない場合、
毛布や布団などでとっさに覆い、
空気を遮断して水をかけて消火することもできます。
- 浴槽の残り湯を捨てずに残しておきましょう。



▶ 石油ストーブを点火したまま『給油』や『移動』を行ったり、『近くに洗濯物を干したり物を置くこと』はやめましょう。

- 手元がくるって灯油がこぼれ、火にかかったりする恐れがあり、極めて危険です。
- 石油ストーブの上にひもを張り洗濯物を干していると、ストーブの上に落ち、燃えるおそれがあります。
- ストーブをカーテンのある窓際に置くと、カーテンがすきま風にあおられて燃えるおそれがあります。
- 石油ストーブをつけたまま就寝することはやめましょう。

▶ 石油ストーブで火事になりかけたら・・・

- 消火器を使って落ちついて消火してください。
 - *消火器の置いてある場所を確認しましょう。
 - *防災訓練に参加して消火器の使い方を身につけましょう。
- 毛布や布団などでとっさに覆い、空気を遮断して水をかけて消火することもできます。
- 出火直後の小さな火なら、お茶や牛乳で消すことができる場合もあります。あわてずに、手のとどく範囲にある「水分」をかけてください。
- 万が一のときは、消火より避難を最優先することが大切です。

**浴槽の残り湯は、
消火用のため
捨てずに残して
おきましょう**

